

令和6年度第6回みんなでまちづくり推進会議 議事概要

日時：令和7年2月12日（木）18：30～

場所：境港市民活動センター

出席 松本幸永（会長）、三原真由美（副会長）、池淵匠、遠藤緑、松田真二、宮本剛志、
吉田明広（7名・敬称略）

アドバイザー 毎熊浩一（島根大学法文学部教授）

欠席 足立勲、河岡雅、舩岡彩子、丸山誉覚、安原真弓（5名・敬称略）

事務局 小川博史（総合政策課長）、足立麻優子（同係主事）

I 第9期取組テーマについて

(1)事務局説明【資料1】

- ・ 前回（7月30日・毎熊アドバイザー出席）から、これまでの協議経過について説明。
- ・ ①「みんなで」に力点を置いたテーマ、②市民活動推進補助金の見直し、③前期テーマ（第8期）を具体化するための深掘り、大きく3点のテーマで議論してきた。
- ・ 事務局案としては、「より多くの人にまちづくりに関わってもらうために」（仮称）とした。
- ・ また、過去3年間で市民活動推進補助金を活用した団体（22団体）へアンケートを実施。

(2)アンケート結果【資料2】

- ・ 補助金の交付対象(問1)、補助対象となる経費や使途(問2)、事業の区分と補助額(問3)、申請手続き(問4)、今後の改善点(問5)、について、審査側と申請側へそれぞれ意見を求めた。

(3)意見交換

- ・ 前期のテーマ「自分の好きなこと得意なことからアプローチする」の深掘りは必要と感じているが、アンケート結果からも、申請者側と審査側でギャップを感じるので、「活動しよう！」と思ってもらえる入口を両者が合致した形で作ったうえで、前期の深掘りに入るのが理想と感じた。（委員）
- ・ 緑化事業は多くがPTAからの申請であり、活動の維持が精いっぱいではないだろうか。申請のハードルを下げることも事業の継続につながる。（委員）
- ・ 申請が不要と認められる良い事業であれば、小学校で市の予算をつけて進める方向性もあるが、「みんなで」という方向性には、何か外から変化の刺激があった方が良い気がする。（委員）
- ・ 花いっぱい運動については、申請の簡素化も含め制度改正が必要という方向としたい。（会長）
- ・ 今日結論を出す会ではなく、委員それぞれが方向性や考えを示していただき、この補助金がどんなまちづくりにつなげていくかを考えることをイメージした方が良い。何となく今の制度は中途半端で、補助金を出すだけで終わっている。補助金を使って市民活動を盛り上げていこうと考えれば、前期の深掘りにもつながっていく。出発点は補助金としつつも、まちづくりどうやってつながるか、どちらも欠かせない議論。（アドバイザー）
- ・ 花いっぱい運動に関しては、この会議で審査するのではなく、教委や環境部門で補助金を出す形もあ

りだと思う。環境部門で違う文言で補助されているのではないかと感じる。(アドバイザー)

・この補助金をどういうまちづくりに使って欲しいのか、ゴール的なものを示した方がやり易いのではないかと。とにかく申請件数を増やすことが「みんなでまちづくり」につながるのか、違う方向があるのか。(委員)

・「みんなでまちづくり」の視点で言えば、運営側で関わる人数は大きな指標と感じる。(委員)

・いっぱい要素があり、審査方法、対象、規模、補助金の建て付け、他と組み合わせなど、おそらく正解は無いので、50万円を2件採択して頑張ってもらうとか、という手法もある。いろいろな意見を今日は言い合ったら良いのではないかと。(アドバイザー)

・申請者のプレゼンを公開する、というやり方もある。公開すると、別の興味がある人が見て次につながる。審査員には非常にプレッシャーがかかるが。(アドバイザー)

・メリハリというか、補助額の高いものと低いものの整理は必要と思う。(委員)

・予算を使いきるくらい、あちこちで活動があることが理想だと思う。(委員)

・プレゼンだけではなく、活動の「報告」をやっている地域がある。それも市民に広がるし、やはり市民がどれだけ参加しているか。(会長)

・採点方法に「住民参加度」を高くするやり方もあるし、今の採点方法だと、自主性とかが高くて高い得点になる仕組みではあるが、それは仕方がない。(アドバイザー)

・事業の目的が良いものでも、市民の参加度という点では、自分たちの利益だけと感じられる事業もある。「ゴミ拾いイベント」に関しては都会的だし面白いと思ったが、市民参画としては限定的。逆にそれを市民に向けて報告会もして市民のためになる、となれば、それはそれで良いが。(委員)

・県もこういった市民活動への補助金があると思うので、事務局で調べて欲しい。また、補助団体への報告会も重要で、義務にしても良いし、まちづくりを市民が勉強する場にもなる。松江市では年に2回の場合があり、夏はプレゼンで知ってもらい、冬は発表を通じて課題を共有し、「自分はこんなことが出来るよ」といったアイデアをマッチングする会をやっている。そこでつながりが出来ている。今後申請を考える団体も参加している。(アドバイザー)

・松江市でのそのイベントに参加したことがあるが、「まちづくり日」と題して、任意ではあるがやる側も、今後の活動を考えている側も参加していた。(委員)

・松江市の「島」を盛り上げたい団体がいて発表したら、漁師から「そこまでの船を出すよ」という意見が出てくれた、といった例もある。(会長)

・こういった報告会を「やってみたい」と思う団体の意向を把握してほしい。(委員)

2 その他

アドバイザーから、今後の検討材料として助言

・この補助金に、自己負担は必要かという点。申請件数が少ない要因かも知れない。

・審査会を年4回が良いのかどうか。他市は年1～2回。